

藤岡 幸夫 Sachio FUJIOKA (指揮)

関西フィルハーモニー管弦楽団 首席指揮者 Principal Conductor of the Kansai Philharmonic Orchestra

慶応義塾大学、英国王立ノーザン音楽大学指揮科卒業。「サー・チャールズ・グローヴス記念奨学賞」を特例で受賞。

1994年にロンドン夏の風物詩「プロムス」にBBCフィルを指揮してデビュー。以後ロイヤル・フィル、ロイヤル・リヴァプール・フィル等多くの海外オーケストラに客演。2006年、スペイン国立オヴィエド歌劇場プリテン「ねじの回転」ではその年の同劇場新演出作品のベスト・パフォーマンス・オブ・ザ・イヤーに輝き、2009年にR.シュトラウス「ナクソス島のアリアドネ」で再び大成功を収めた。マンチェスター室内管、日本フィルを経て、現在関西フィル首席指揮者。毎年40公演以上を指揮し2017年で18年目のシーズンを迎えた関西フィルとの一体感溢れる演奏は高い評価を得る。英シャンドスと契約、BBCフィルと8枚のCDをリリース。関西フィルとはA L M RECORDSにシベリウス交響曲全曲録音を進行中。BSジャパン「エンター・ザ・ミュージック」(毎週月曜23:00)の立ち上げに参画し、指揮・司会として関西フィルと共に出演中。2002年渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。



坂口 裕子 Yuko SAKAGUCHI (ソプラノ)

愛知県立芸術大学卒業、卒業時に桑原賞受賞。京都市立芸術大学大学院修了、修了時に大学院賞受賞。

平成20年度文化庁新進芸術家海外留学制度在外研修員としてミラノに留学し、G.ヴェルディ国立音楽院を最優秀でディプロマ取得。08年イタリア・リッソーネ市音楽コンクール優勝等、数々の国内及び国際コンクールに入賞している。

イタリア・ベルガモ市において、チルコロ・ムジカーレ・マイル・ドニゼッティ主催「ランメルモールのルチア」タイトルロールでデビューし、「愛の妙薬」「リゴレット」「椿姫」「ノルマ」「ラ・ボエーム」等、多数出演。

11年に活動の拠点を日本に移し関西を中心に活躍。藤原歌劇団には16年「ドン・パスクワレ」ノリーナでデビューし成功を収め、本年12月「ルチア」タイトルロールに出演予定。その他宗教曲のソリスト等でも多く活躍をしている新進ソプラノ。

平成26年度坂井時忠音楽賞受賞。ジャパテル・サウンド・オペレーションズより支援を受ける。藤原歌劇団団員。



西原 綾子 Ayako Nishihara (アルト)

大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業。同大学専攻科修了。関西歌劇団「カルメン」タイトルロール、「蝶々夫人」スズキ、「仮面舞踏会」ウルリカ、「カヴァレリア・ルスティカーナ」サントウツツア、「ファルスタッフ」クイックリー、「ルサルカ」魔女、「リゴレット」マッダレーナ等、多くの作品に出演。

歌劇団以外にも「ピーター・グライズ」アーンティ、「イル・カンピエット」オルソラ、「トロヴァトーレ」アズチーナ、「アイダ」アムネリス、「ドン・カルロ」エポリ公女、「ジャンニ・スキッキ」ツイータ等、幅広い音域の役柄を歌っている。また、「第九」、「メサイア」、「レクイエム」等のソリストも務める。2015年、建て替えの為に閉鎖された渋谷公会堂の最後の「第九」ソリストも務めた。ドイツ・ヴァイカースハイム国際音楽祭にてディプロマを取得。永井和子氏に師事。

関西歌劇団理事。大阪音楽大学付属音楽院講師。関西歌劇団楽しいオペラ教室講師。



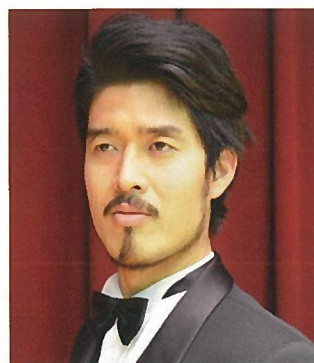
谷 浩一郎 Kouichiro Tani (テノール)

ドイツ国立マンハイム音楽大学オペラ科修了。在学時、マンハイム国立歌劇場、ハイデルベルグ市立歌劇場でオペラのソロを歌う。カナダのモントリオールに若き歌の親善大使として、またロサンゼルスのアラタニ劇場での第九ソリストとしても招聘されその活動は世界中に広がりがつつある。

ドイツ語、英語、イタリア語を話す知性派テノールは歌唱力、演技力だけではない。そのたぐい稀なる語学センスを活かした美しい外国語の発音は、共演した各言語のネイティブの音楽家らが認めている。

ベートーベンの第九ソリストは2010年の日本での活動開始より数十回に及ぶ。

全国高校ラグビー大会開会式、東大阪都市制45周年記念式典で国歌を独唱、FM Osaka「くらこれ」にゲスト出演など活動は多岐にわたる。大阪音楽大学演奏員、関西歌劇団理事、ドイツワーグナー奨学財団奨学生。



落合 庸平 Youhei Ochiai (バス)

岡山県立津山高校普通科卒業。国立神戸大学発達科学部人間行動表現学科卒業。京都市立芸術大学大学院音楽研究科声楽専攻修了。神戸大学卒業後、日本を代表する声楽家佐藤康子氏の援助を受け、イタリアのG.B.Viotti音楽院に留学。Fulvio Bottega氏の下で研鑽を積みCorso triennale(三年制コース)を修了。

アラニャ市立歌劇場にて「ラ・ボエーム」シヨナル役でデビュー。帰国後もジレットティ歌劇場の公演「ラ・ボエーム」に再びシヨナル役として召喚され、地元紙に掲載されるなど好評を博す。関西歌劇団による吹田市メシアター25周年記念公演「フィガロの結婚」(大阪文化祭奨励賞受賞)にタイトルロール、「皇帝ティートの慈悲」(大阪文化祭奨励賞受賞)にプブリオ役で出演。これまでに、秋山貴・畠中良子・西垣敏朗・益子務・高須礼子・松本薫平・菅英三子・折江忠道の各氏に師事。現在、KOSMA音楽愛好会講師、関西歌劇団正団員。